



特定非営利活動法人ながいく

令和7年度WAM助成 (補正予算事業)

子育て家庭の孤立防止のための包括的支援事業

480-1111

愛知県長久手市岩作長池53-3

子育て家庭の孤立防止のための包括的支援事業

子育て世帯の孤立防止と生活支援を目的に、

- ①昼食・夕食提供を伴う子育てひろばの運営、
- ②商業施設等での出張子育てサロンの実施、
- ③電話・LINEを活用した相談支援

を行う事業。

特に転入世帯や生活困窮世帯に対し、食事提供を入り口とした包括的支援を展開する。

助産師・公認心理師・保育士等の専門職と連携し、支援窓口へのアクセスに不安を感じる家庭も含め、切れ目のない支援体制を構築する。



事業について



長久手市と近隣地域に暮らす子どもが、個性や能力を最大限に生かし自分らしい存在として成長できる社会を作るため、保護者や地域の関係団体と協力を図り、子育てについての啓発、生活及び学習環境の向上、体験の機会の創出を行い、またこれにより多様性や創造性が豊かな住みよいまちづくりに寄与することを目的とする。

長久手市は、住みやすく子育てしやすい街として全国的に知られ、子育てで支援が充実していると思われがちです。しかし、全体的に裕福な地域であるため、支援活動は活発とは言えず、それも孤立化の一因となっています。加えて、核家族化に加え出産前後の転入家庭が多いことから、子育て世帯の地域での孤立が深刻な課題となっています。

- ①育児休業期間の短縮により、1歳未満での職場復帰を余儀なくされる保護者が増加。早期かつ短期間での地域資源との関係構築が求められています。
- ②物価高騰の影響で、特にひとり親家庭や生活困窮世帯の食費や生活必需品の支出が家計を圧迫。当団体の支援物資がなければ、おかずを出せない家庭もあります。
- ③支援窓口へのアクセスに不安を感じたり、子育て支援サービスの利用経験が乏しい家庭が存在。こうした家庭は社会的孤立に陥りがちで、従来の支援では届きにくい状況にあります。

これらの課題に対し、子育てひろばや出張サロン、LINE相談等を通じた包括的支援を展開してきました。その中で、対面相談に抵抗のある若年層へのデジタル支援や、夜間帯の支援体制整備など、新たなニーズも明らかになってきています。

子育てシェアの家
ほんぽん



独立行政法人福祉医療機構
山形助成 社会福祉振興助成事業

おやこ食堂

子育てひろば!

毎週 月・金 10時-13時

予約
してね!

パパママ	300円
子ども	100円
※子どもおかずなし→0円	
一般の方	500円



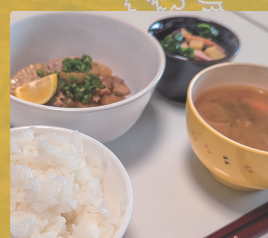
LINE
公式アカウント
@nagaiku

「かわいいことや予約は
LINE公式アカウントで!」

長久手市岩作長池53-3
0561-41-8145
お問合せはLINEがおすすめ!



自己紹介タイムや、紙しばいの読み聞かせもあるよ!
親子向け・パパママ向けの講座もあるよ!
絵本棚やリサイクルコーナーも〜!
LINEから、気軽にご質問ください



ごはん・汁ものはおかわり無料!
持ち込みもOKです。
メニューはシェアのおまかせ!



相談ごとも
LINEでお気軽に!
電話もOK!



おうどん屋さんの
北側が入り口です!

ウエルシア・JAなど、商業施設の駐車場には
絶対に駐車しないで下さい!!
駐車された場合は、ご利用をお断りします



ぽんぽん♪通信 2025年 6月・7月

ピックアップ！

=ながいくのお誕生会=

6月26日(木) 市が洞共生ステーション

6月28日(土) まちづくりセンター

7月24日(木) 西共生ステーション

7月26日(土) まちづくりセンター

2025年5月から
場所と時間が
変更になりました

いずれも 11:00～11:30

子どもたちのお誕生日を、まちのみなさんでお祝いします！

0～2歳までの子には、
おむつ(事前に予約してね)
&まちのみんなが作ってくれた
手作りのカードをプレゼント

3歳以上のお誕生月の子は、
お菓子を3つ選べます

お誕生日でない方も、
お友だちをお祝いしに
来て下さいね！



4月・5月の活動



5月9日 子どもの食事座談会

現役保育士で幼児食インストラクターの
かおる先生を囲んで座談会を行いました。
好きキライや気になることを質問したり、
参加者同士でも情報交換したり、食につい
て考える時間になりました。



5月19日 おやこ食堂ランチタイム

この日は親子8組が集まり、遊んでおしゃ
べりして、ランチを食べました。大きくお
くちを開けてパクッ！大きなガス炊飯器で
炊いたご飯はいつも大人気で、お替わりで
きます。みんなで食べると楽しいですね♪

おやこ食堂への参加方法

- ① LINE公式アカウントに登録
- ② LINEメニューの「ひろば・ランチの予約・変更」から、日にちを選んで予約
- ③ ぽんぽんに来たら、受付をして利用料を支払う
- ④ 利用方法についての説明を受ける

- ・ 未就学児と保護者が、スタッフを交えながら遊んだりイベントに参加して過ごす「子育てひろば」と、お昼ご飯の提供をする「こども食堂」を合わせたものを、「おやこ食堂」と呼んでいます。
- ・ イベントのある日もありますが、参加せずに見ているだけでもOKです。
- ・ アレルギー対応食・離乳食の準備はありません。持ち込みOKです。
- ・ 食事をしない・イベントに参加しない場合も、利用料金は変わりません。
- ・ 10時～13時で、都合の良い時間に来て下さい。 10:30～イベント 11:30～ランチ

イベントスケジュール LINE公式アカウントから 要予約！

アロマテラピー	6/2月	—
お片付け講座	6/13金	—
もみほぐし リラクゼーション	6/27金	—
助産師さんと リラックス育児座談会	—	7/7月
子どもの食事座談会	—	7/11金
ヘッドマッサージ	—	7/25金
美姿勢レッスン	6/10火	7/8火

美姿勢レッスンは、イオンモール長久手 フードコートにて実施いたします

出張子育てサロン&相談室

予約なし 無料
火・木曜日 10:00～13:00

公認心理師やスタッフがなんでもお聞きします！
子どものこと、家族のこと、愚痴・悩みごと・嬉しい
こと・自慢話！妊娠中のことから、小中学生の学校の
ことまで「誰かに聞いて欲しい…」と思ったら、ぜひ
来てみてくださいね

イオンモール長久手 3階フードコート	毎週火曜日	
福祉の家	6/5木	7/3木
県営長久手住宅(井堀) 集会所	6/12木	7/10木
県営東原山住宅 集会所	6/19木	7/17木
市が洞小校区 共生ステーション	6/26木	—
西小校区 共生ステーション	—	7/24木

※最新の開催情報は、LINE公式アカウントをご覧ください

寄付

ながいくは認定NPO法人を
目指しています。

100人以上の方から
3000円以上のご寄付が必要です。

※税制優遇措置(寄付金控除、寄付金損金算入)の
対象となります

※現金、振り込みでも可能です

<https://syncable.biz/associate/nagaiku>

Syncable
寄付フォーム



特例認定NPO法人ながいく

長久手市岩作長池53-3 0561-41-8145

<https://nagaiku.org> contact@nagaiku.org

実施事業：子ども第三の居場所・子育てひろば・親子向け講座・子育て相談・子ども食堂(昼・夜・食品配布)・出張サロン など
連携団体：長久手市子ども家庭課・保健センター・地域共生推進課・長久手市社会福祉協議会・名古屋外国語大学城月ゼミ・
愛知淑徳大学コミュニティコラボレーションセンター・NPO法人カモンフォーニッポン・子育て支援ネットながくて

利用者数

夕食バイキングのべ利用者数

月	開催回数	大人	未就学 (0-5歳)	小学生 (6-11歳)	中高生 (12-17歳)	子ども計	合計
2025-05	5	51	48	142	10	200	251
2025-06	4	62	59	145	14	218	280
2025-07	4	61	68	131	13	212	273
2025-08	4	60	60	123	13	196	256
2025-09	4	54	62	136	16	214	268
2025-10	5	74	90	173	20	283	357
2025-11	4	57	59	146	16	221	278
2025-12	4	66	56	138	8	202	268
2026-01	4	53	55	121	19	195	248
2026-02	3	55	45	86	13	144	199
2026-03	4	65	58	121	24	203	268
合計	45	658	660	1,462	166	2,288	2,946

子育てひろば・ランチのべ利用者数

月	開催回数	大人	未就学 (0-5歳)	小学生 (6-11歳)	中高生 (12-17歳)	子ども計	合計
2025-05	8	67	86	0	0	86	153
2025-06	8	70	95	0	0	95	165
2025-07	8	70	94	1	0	95	165
2025-08	7	55	82	1	0	83	138
2025-09	8	71	90	0	0	90	161
2025-10	8	73	83	1	0	84	157
2025-11	8	71	86	1	0	87	158
2025-12	8	68	93	0	0	93	161
2026-01	8	74	89	2	0	91	165
2026-02	8	72	93	0	0	93	165
2026-03	8	69	95	0	0	95	164
合計	87	760	986	6	0	992	1,752

夕方サロンあらあら

月	開催回数	大人	未就学 (0-5歳)	小学生 (6-11歳)	中高生 (12-17歳)	子ども計	合計
2025-05	4	13	13	1	0	14	27
2025-06	4	19	31	1	0	32	51
2025-07	5	24	43	2	0	45	69
2025-08	3	12	23	0	0	23	35
2025-09	4	16	27	1	0	28	44
2025-10	4	20	36	1	0	37	57
2025-11	3	14	25	0	0	25	39
2025-12	2	9	17	0	0	17	26
2026-01	3	13	20	0	0	20	33
2026-02	2	9	10	0	0	10	19
2026-03	3	13	17	0	0	17	30
合計	37	162	262	6	0	268	430

出張サロンのべ利用者数

月	開催回数	人数計	大人	子ども	組数計	長久手	その他
2025-04	8	198	87	111	83	32	51
2025-05	7	125	60	65	52	19	33
2025-06	8	170	84	86	77	26	51
2025-07	9	235	107	128	102	27	75
2025-08	7	177	76	101	68	22	46
2025-09	7	119	57	62	54	14	40
2025-10	8	167	78	89	75	29	46
2025-11	6	84	41	43	38	17	21
2025-12	7	121	58	63	56	23	33
2026-01	7	139	66	73	66	25	41
2026-02	8	165	79	86	72	26	46
2026-03	8	209	96	113	84	40	44
合計	90	1,909	889	1,020	827	300	527

世帯数(ユニーク予約者数)

コース	世帯数(実数)	延べ予約件数
夕食バイキング	127	797
子育てひろば・ランチ	171	554
夕方サロンあらあら	36	153
全コース横断(重複除外)	274	1504

世帯数(ユニーク予約者数)

コース	大人	未就学(0-5歳)	小学生(6-11歳)	中高生(12-17歳)	子ども計	合計
夕食バイキング	156	130	97	17	244	393
子育てひろば・ランチ	190	236	5	0	241	431
夕方サロンあらあら	44	55	1	0	56	100
全コース横断(重複除外)	325	339	99	17	455	770

延べ人数 VS 実人数 対比(個人レベル)

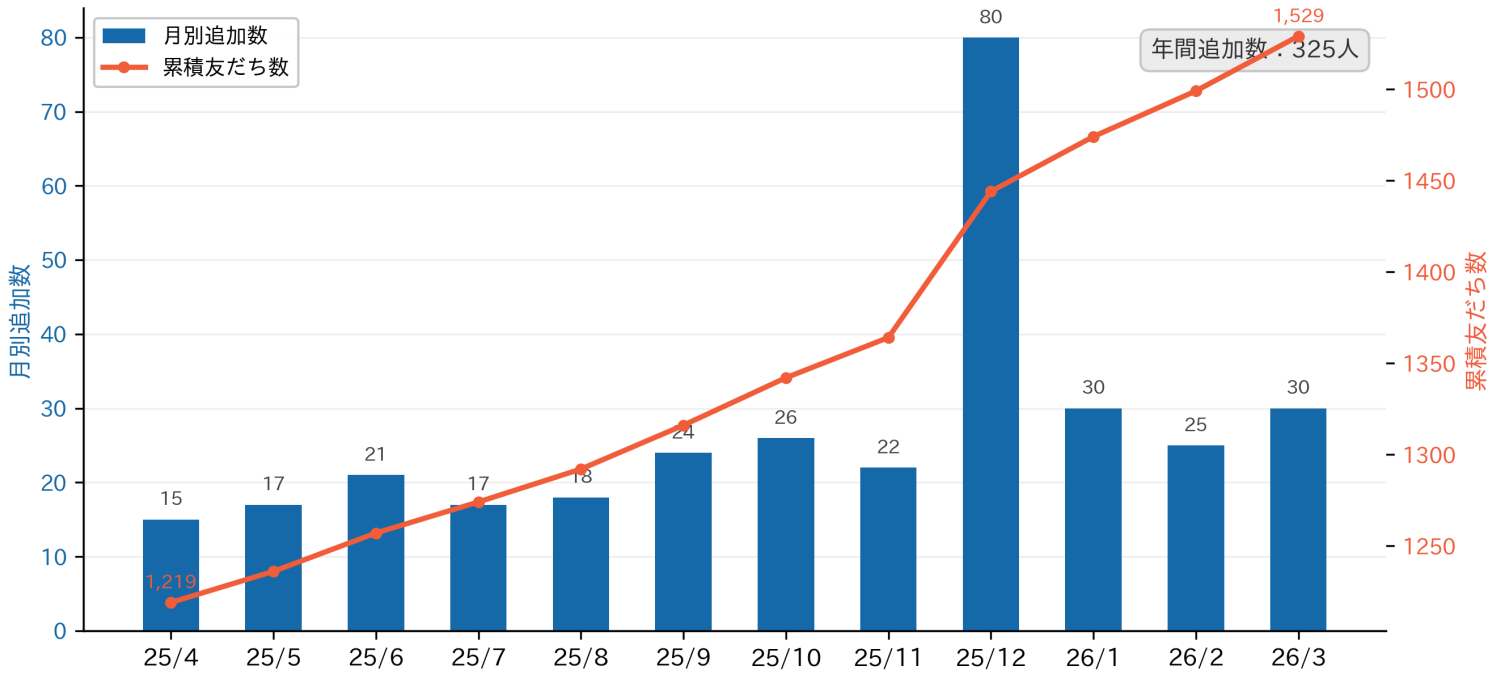
コース	延べ大人	実大人	延べ子ども	実子ども	延べ合計	実合計
夕食バイキング	664	156	2,282	238	2,946	394
子育てひろば・ランチ	760	190	992	241	1,752	431
夕方サロンあらあら	162	44	268	56	430	100
全コース横断(重複除外)	1,586	325	3,542	448	5,128	773

物価高騰の影響もあり、利用者のニーズに対して十分な支援を行えたかという点では、まだ不足があったと感じている。一方で、非常に重大な課題を抱えた家庭において、子どもが自ら必要な際に団体を訪れることができるようになるなど、自立に向けた具体的な変化も見られた。

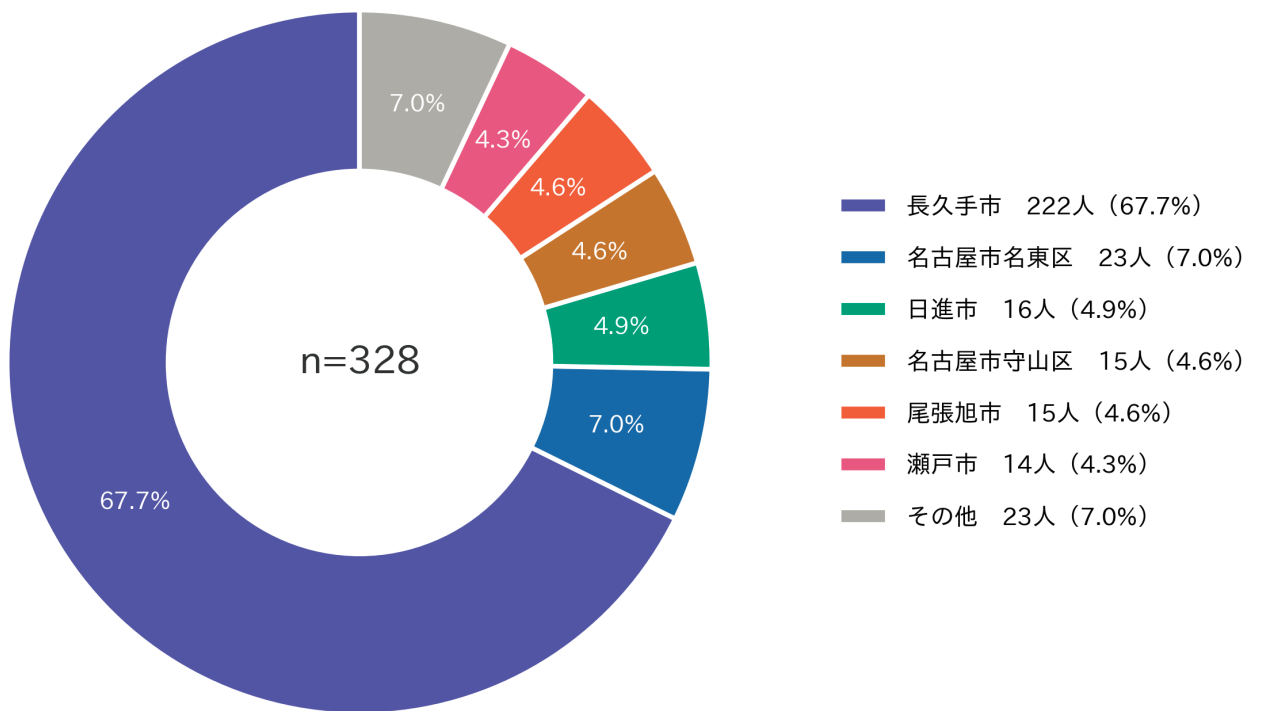
また、定期的な食支援を通じて、生活保護の申請に踏み出す意欲が生まれ、生活が安定に向かったケースもあり、価値ある成果を上げることができた。

今後は、支援の量を増やすことだけを目指すのではなく、一人ひとりに寄り添った質の高い支援のあり方を模索していきたい。

LINE友だち(登録者)数

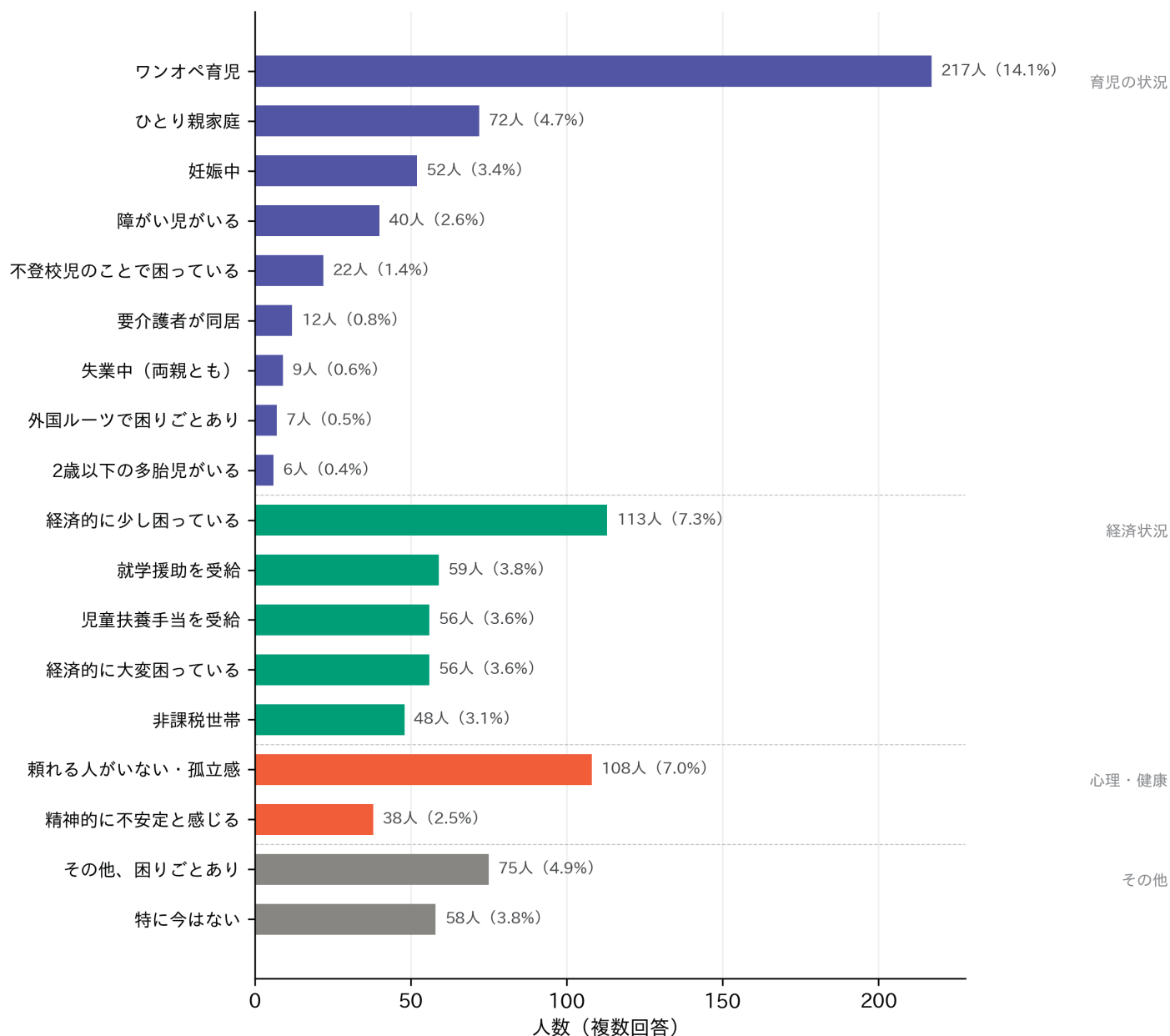


アンケート回答者の居住地割合

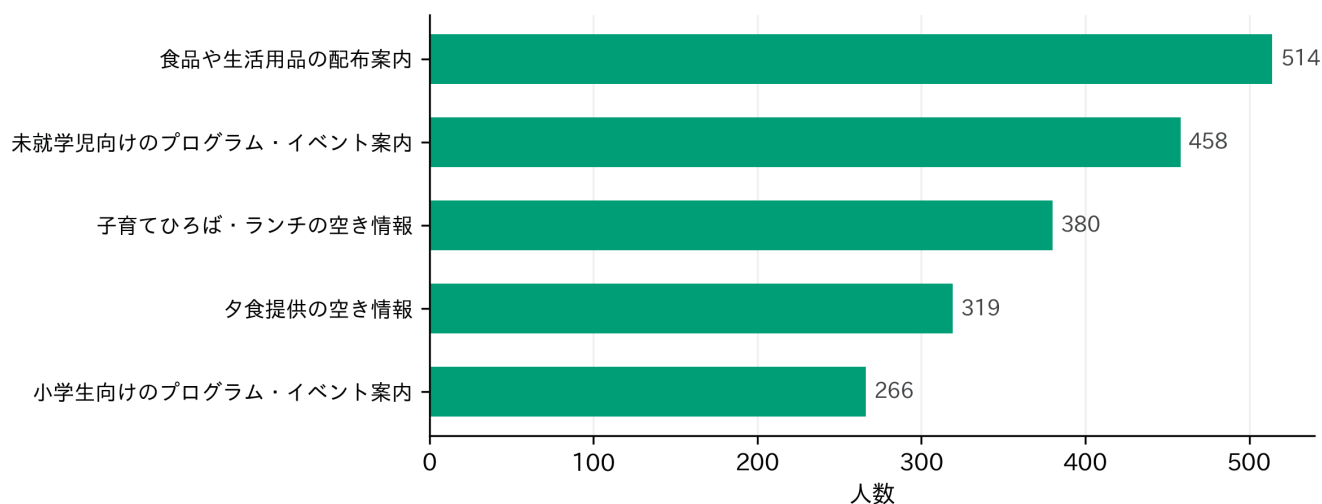


※「その他」の内訳：愛知郡東郷町 4人、豊田市 4人、名古屋市天白区 3人、みよし市 2人、名古屋市緑区・南区・千種区・東区・春日井市・清須市・大府市・豊明市・あま市・恵那市 各1人

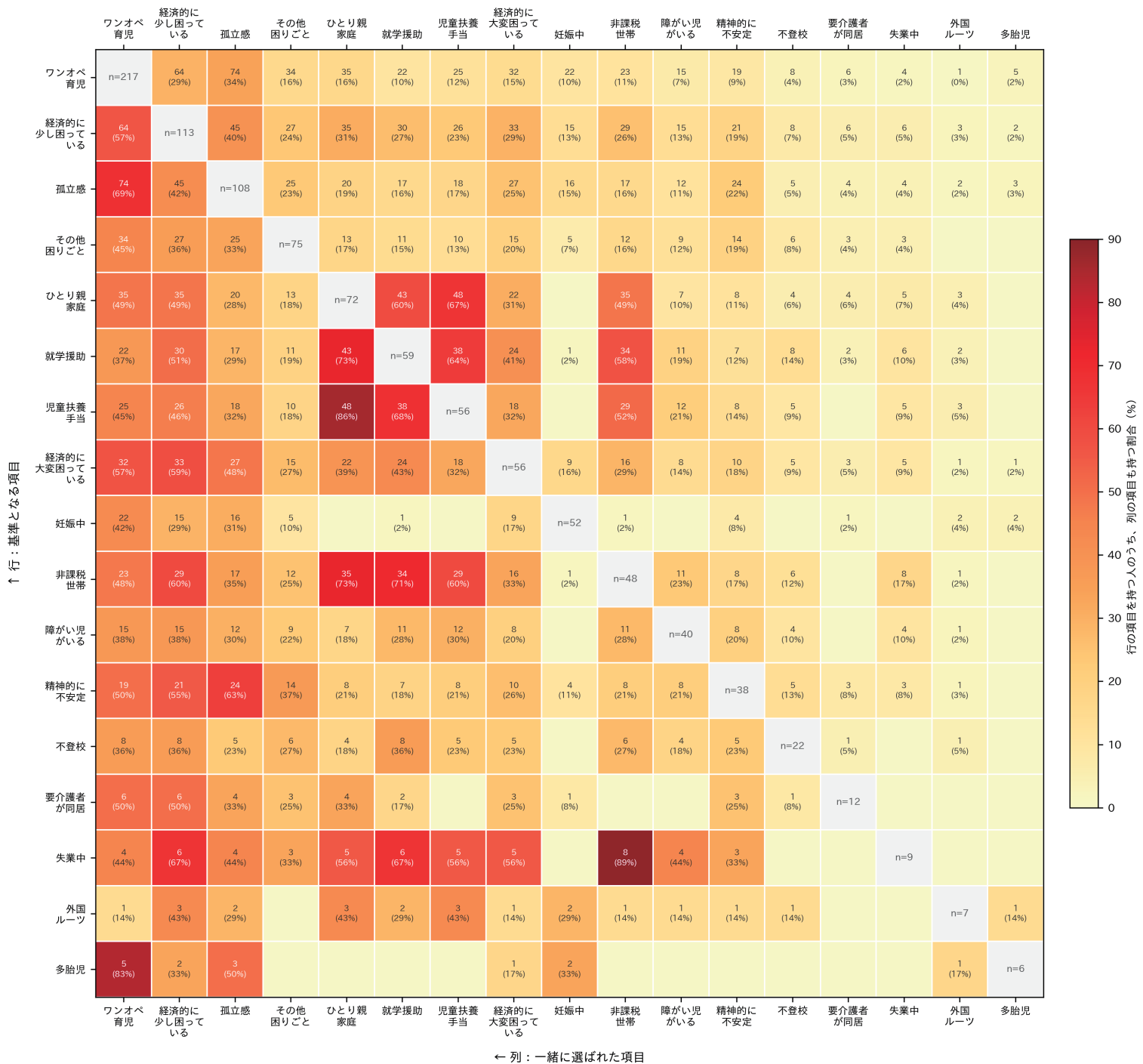
アンケート回答者の困難な事項(複数回答あり)



アンケート回答者の配信案内希望(複数回答あり)



困難な事項の重複度合い

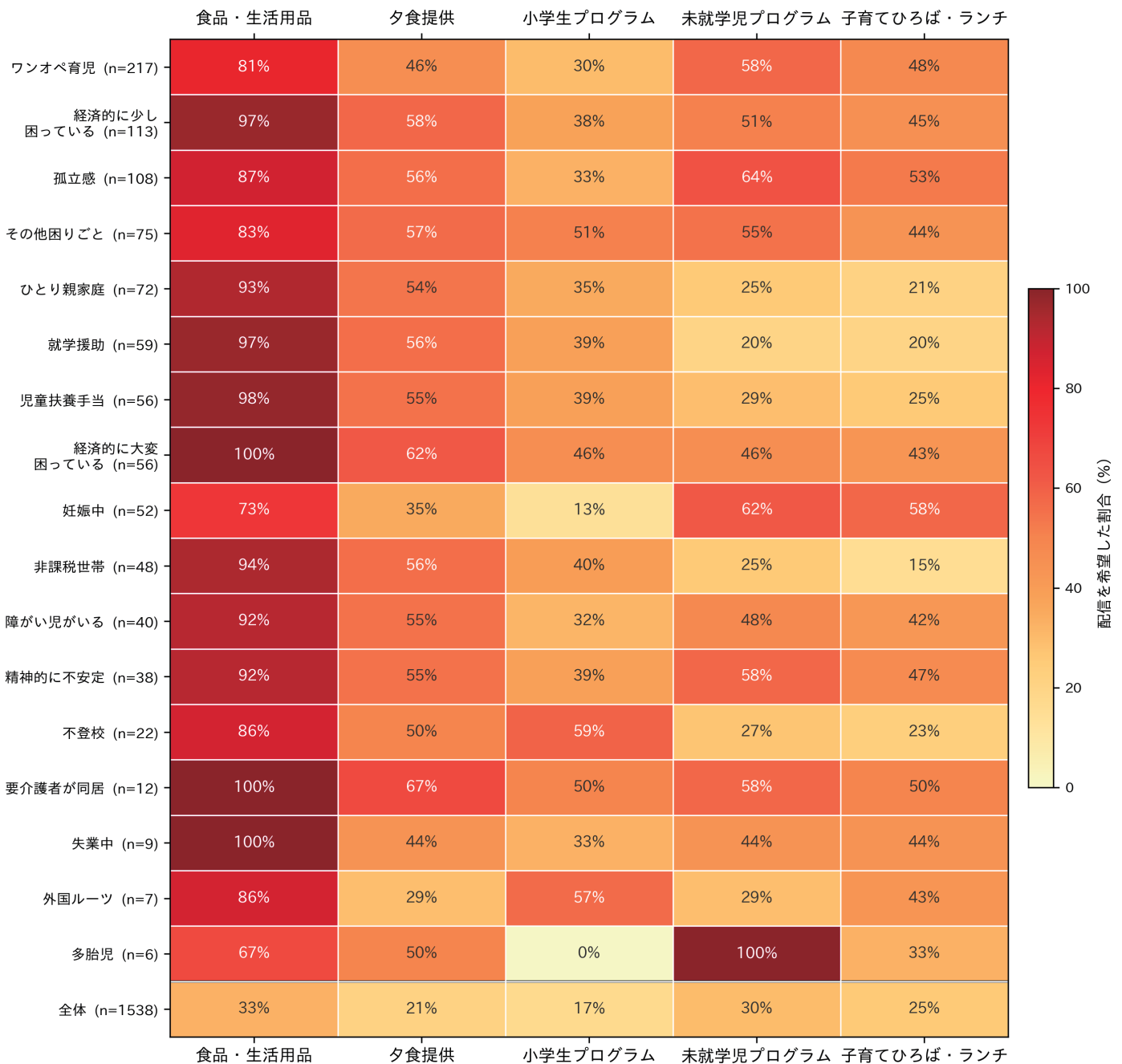


アウトカム(直接的成果)

民間団体による継続的な支援は、被支援者との間に実家のような親密な関係性を生みやすく、それが自立を阻む要因になり得ることを実感した。

支援者と被支援者が共依存的な関係に陥らないためにも、公的な支援制度への積極的なつながりや、地域の助け合いの輪への参加を促すことが重要であると認識し、社会福祉協議会等を通じた公的支援への橋渡しや、地域住民との交流機会の創出に取り組んだ。

ただし、他団体や行政との連携においては個人情報保護の壁もあり、必要な情報の共有が容易ではない現状がある。だからこそ、支援を必要とする家庭に届く情報発信の工夫がより一層重要になると感じている。



インパクト(社会的成果)

私たちがさまざまな家庭や状況にアプローチしてきたことで、地域の子どもを見る目に変化が生まれてきたと感じている。

たとえば、みんなに配られたお菓子を全部持ち帰ってしまう子どもに対して、以前なら「困った子」として叱られていたような場面でも、「食べる物に困っているのかもしれない」と受け止めてもらえる雰囲気、少しずつ地域に生まれてきているように感じる。

「困っているのかも」と見てもらえることで、その子は叱責の対象ではなく、優しく接してもらえる存在になる。

こうした視点の転換が、地域のあちこちで静かに広がりつつあるのではないと思われる。

困難を抱える子どもたちに対して、仲間として向き合おうとする団体や個人が地域に増えていくこと。

これこそが社会的な成果の広がりにとって重要であり、「このままにはいけない」と共に動いてくれる人々が地域に生まれつつあることは、大きな手応えである。

